



フェリックス・ホフマン 絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より 小さな絵本美術館蔵 © フェリックス・ホフマン

2023年4月8日（土）- 7月2日（日）

主催：ベルナール・ビュフェ美術館

協力：小さな絵本美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館

後援：静岡県教育委員会、長泉町教育委員会、清水町教育委員会、裾野市教育委員会、沼津市教育委員会、三島市・三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

## 展覧会概要

### ぞくぞく、わくわく、誰もが夢中になる、 懐かしくて新しい絵本の世界へ！

スイスは多くのすぐれた絵本画家を輩出した国で、その絵本は日本でも出版され、今もなお愛され続けています。本展では、スイスを代表する3人の絵本画家、クライドルフ、フィッシャー、ホフマンの世界を紹介します。

スイスという国の美しい風土と歴史、そして世界共通の、親が子どもを愛する気持ちから生まれた絵本の魅力、ぜひお楽しみください。

印刷技術の革新とともに、たくさんの絵が入った子どもたちのための本が登場した19世紀。その後、スイスでは、たくさんの素晴らしい絵本が生み出されます。

アルプスの植物や虫などの小さな生きものを見つめ、花々を装飾的に擬人化した『花のメルヘン』などで絵本画家の先駆けとなったエルンスト・クライドルフ (1863-1956)。『ブレーメンのおんがくたい』や『こねこのぴっち』など、軽やかで勢いのある線で動物たちを描いて人気を博したハンス・フィッシャー (1909-1958)。日本でも愛されるグリム童話『おおかみと七ひきのこやぎ』や『スイスの伝説』を、あたたかくユーモアあふれる絵で表現したフェリックス・ホフマン (1911-1975)。

今や「クラシック」ともいえる彼らの絵本は、見る人を惹きつけてやまない、ちょっとぞくぞくするこわさ、わくわくする楽しさ、うっとりする美しさにあふれています。本展では、長野県にある「小さな絵本美術館」の協力のもと、フィッシャーの原画やクライドルフの初版リトグラフ、ホフマンの手書き絵本など約130点で、スイスを代表する3人の絵本の世界を紹介します。

ハンス・フィッシャー  
絵本『ブレーメンのおんがくたい』より  
小さな絵本美術館蔵 © ハンス・フィッシャー



## グリム童話

19世紀にドイツのグリム兄弟が昔話を収集し編さんした『グリム童話集』は、イスのドイツ語圏で育ったクライドルフ、フィッシャー、ホフマンにとって、親から子へ語り継がれる非常に身近なものでした。彼らはグリム童話に関する作品を多数制作しています。その中から、『ブレーメンのおんがくたい』『ねむりひめ』『おおかみと七ひきのこやぎ』など、今も読まれ続け、私たちにも馴染み深い作品を中心に紹介します。

もともとのグリム童話は、現在ひろく知られている内容と異なる点もあります。一部の残酷な場面が、翻訳や映画化などによってやわらかい表現になったり、削除されたり、子どもが接しやすくなるように変化していきました。しかし、3人の絵本画家たちが手がけた絵本原画や挿絵をみていくと、私たちが親しんだグリム童話の魅力には、楽しさ、かわいらしさ、面白さだけでなく、昔からある物語が本来持っている、ぞっとするような怖さや厳しさがあるのだと気づかされます。



ハンス・フィッシャー

絵本『ブレーメンのおんがくたい』より  
小さな絵本美術館蔵 © ハンス・フィッシャー



ヘンゼルとグレーテルの物語の  
始めから終わりまでがひとつの  
画面に描かれています。

ハンス・フィッシャー

絵本『メルヘンビルダー』より  
小さな絵本美術館蔵 © ハンス・フィッシャー



フェリックス・ホフマン

絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より  
小さな絵本美術館蔵 © フェリックス・ホフマン



グリム童話「白雪姫」の続編とも  
言える絵本。7人の小人のところ  
へ訪ねてくる白雪姫に会うために、  
7人の小人のいとこにあたる  
「3人の小人」が冬の大地を旅します。

エルンスト・クライドルフ

絵本『ふゆのはなし』より  
小さな絵本美術館蔵

## スイスの世界

3人の絵本画家を生み出した国、スイスに関連する作品を紹介します。

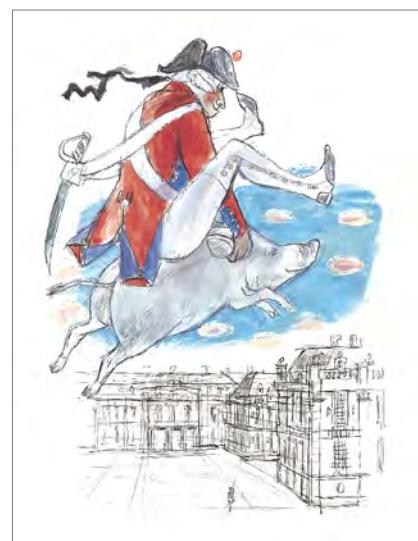
クライドルフは、子どもの頃からスイスの大自然に魅了され、スケッチブックを抱えて森や野原を歩きまわり、草花や昆虫を採集して観察することに熱中しました。『花のメルヘン』などでは草花や昆虫を擬人化した作品を描いています。クライドルフにとって、アルプスの自然は、絵本をつくるきっかけであり、絵の題材であり、インスピレーションを与えてくれる存在だったのでしょう。

ホフマンの描いた『スイスの伝説』のお話は、スイスの厳しい自然環境を示すように、ハッピーエンドで終わる話ばかりではなく、理不尽で恐ろしい話も多くあります。晩年のホフマンは、その複雑な内容を美しい色彩とユーモアに溢れる挿絵で表現しています。

フィッシャーの『こねこのぴっち』に登場するりぜっとおばあさんの家は、スイスの山岳地帯でみられる三角屋根のシャレースタイルです。数多くの動物とともに暮らしているようすや、夜には狐やフクロウがやってくる自然の豊かさから、スイスの生活を想像することができます。



エルンスト・クライドルフ 絵本『花のメルヘン』より  
小さな絵本美術館 アルプスの草花が擬人化して描かれています。



フェリックス・ホフマン 絵本『スイスの伝説』より  
小さな絵本美術館 © フェリックス・ホフマン  
スイスに伝わる伝説や民話にホフマンが描いた挿絵です。  
これは、兵士が豚に乗って空を飛び故郷に帰るシーンです。



ハンス・フィッシャー 絵本『こねこのぴっち』より  
小さな絵本美術館 © ハンス・フィッシャー  
リズミカルな線で活き活きと描かれた動物たちが登場します。

## ギャラリートーク「スイスの自然に育まれた絵本たち」

日時：2023年4月8日（土）13：30-14：30

講師：武井利喜氏（小さな絵本美術館 館長）

予約不要 \*最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

## IMAGES

### 【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。(8点、次ページもご覧ください)  
お申込み、お問い合わせについては6ページをご覧ください。

◆クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。



1 エルンスト・クライドルフ  
絵本『花のメルヘン』より  
小さな絵本美術館蔵



2 エルンスト・クライドルフ  
絵本『花を棲みかに』より  
小さな絵本美術館蔵



3 エルンスト・クライドルフ  
絵本『ふゆのはなし』より  
小さな絵本美術館蔵



4 ハンス・フィッシャー  
絵本『ブーメンのおんがくたい』より  
小さな絵本美術館蔵  
© ハンス・フィッシャー

## 【広報用画像資料】

お申込み、お問い合わせについては次ページをご覧ください。

◆クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。



5 ハンス・フィッシャー  
絵本『メルヘンビルダー』より  
小さな絵本美術館蔵  
© ハンス・フィッシャー



6 ハンス・フィッシャー  
絵本『こねこのぴっち』より  
小さな絵本美術館蔵  
© ハンス・フィッシャー



7 フェリックス・ホフマン  
絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より  
小さな絵本美術館蔵  
© フェリックス・ホフマン



8 フェリックス・ホフマン  
絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より  
小さな絵本美術館蔵  
© フェリックス・ホフマン

## 【広報用画像資料申し込み用紙】

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック  を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

- お願い
- ・クレジット表記は4、5ページの各画像下の情報をご利用ください。
  - ・掲載誌一部をご送付ください／掲載サイトのURLをお知らせ下さい。
  - ・取材にご来館くださる場合は事前に担当者までご一報ください。

---

貴媒体名

---

掲載号 発売・公開日等 年 月 日

---

貴社名 ご担当者名

---

Tel Fax

---

E-mail

---

ご住所

---

1 絵本『花のメルヘン』より

2 絵本『花を棲みかに』より

3 絵本『ふゆのはなし』より

4 絵本『ブレーメンのおんがくたい』より

5 絵本『メルヘンビルダー』より

6 絵本『こねこのぴっち』より

7 絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より-①

8 絵本『おおかみと七ひきのこやぎ』より-②

**FAX : 055-987-5511 / E-mail : info@buffetmuseum.or.jp**

### 【お問い合わせ】

展覧会担当：井島（いしま）

雨宮（あまみや）

ベルナール・ビュフェ美術館

静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57

TEL 055-986-1300

info@buffetmuseum.or.jp

## GENERAL INFORMATION



所 在 地 〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

入館料 大人：1200円（1100円）高・大学生：600円（500円）中学生以下：無料（）内は20名様以上の団体割引

**休館日** 水曜日・木曜日（ただし2023年5月3・4・5日は開館します）

**開館時間** 10:00-17:00 入館は閉館の30分前まで

**アクセス** 自動車の場合 新東名・長泉沼津I.C. または東名・沼津I.C.→伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路）→長泉I.C. 出口 R246を右折／「城山」交差点左折／静岡がんセンター方面へ（新東名長泉沼津I.C.より約5km）

電車の場合 JR東海道線【三島駅】下車  
南口より富士急シティバス駿河平線（運行本数に限りがあります。詳細はウェブサイトをご覧ください）

## 同時開催

<https://www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/>

2023年4月1日（土）- 2023年11月7日（火）

ベルナール・ビュフェ美術館 開館50周年

# “ビュフェ・スタイル” とは何か？

唯一無二のそのスタイルを、たっぷりお楽しみください。 ↗

20歳直前、衝撃的なデビューを飾り、一躍時代の画家になったベルナール・ビュフェ。デビュー時すでに、彼だけの独自の「スタイル」を確立していました。その唯一無二の“ビュフェスタイル”を、当館収蔵の幅広い年代にわたるビュフェ作品100点超でたっぷりご覧いただきます。

ベルナール・ビュフェ美術館 新館展示室